

一般社団法人コミュニティシネマセンター

平成23年度(2011年度)事業計画

1. 受託事業

- (1) 映像アートマネージャー/メディア芸術マネージャー育成のためのワークショップシリーズ
(文化庁 平成23年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

[総合講座]

映像アートマネージャー養成講座Ⅰ～第6期シネマ・マネジメント・ワークショップ

開催期間:2011年7月中旬～2012年3月末(通年開催、原則毎週開講、のべ30～40コマ)

共催:特定非営利活動法人映画美学校

協力:東京国立近代美術館フィルムセンター

対象:映像事業に従事することを旨とする人 定員:20名程度

この講座は、地域のメディア芸術センター、映像アーカイブやシネマテーク、ミニシアター、コミュニティシネマなどのディレクター、スタッフとして、地域の映像文化を担う人材を育成するために行う。2ヵ年継続して行うものとする。初年度の講座では、メディア芸術に関する基礎知識、芸術文化活動としての上映活動に関する理念、映画の歴史、製作から保存にいたる専門的な知識、作り手(アーティスト)支援やアートマネジメント、デジタルコンテンツも視野に入れた映画館運営に関するノウハウまでを総合的に学ぶ。講座の仕上げとして受講生自身の企画による上映会・企画展も開催する。

2年目の講座では「ディストリビューター養成講座」(仮)として、映像の製作・提供(配給・上映)・保存という一連の過程を実践することにより、具体的専門的な知識・ノウハウを身につける。

[映像教育プログラム専門家養成講座]

- ① 映画教育プログラムのための集中講義 イン 広島 ※全国コミュニティシネマ会議と同時期に開催

開催期間:2011年9月1日(木)

共催:広島市文化財団(広島市映像文化ライブラリー) 協力:ヨーロッパシネマ

対象:②のワークショップ参加者を含め計30～40名程度

フランスに本部を置く映画館支援機関「ヨーロッパシネマ」の協力を得て、ヨーロッパから映像教育の専門家、エデュケイターを招き、映像教育の理念と実践を学ぶ集中講義と簡単なワークショップを行う。参加者には、民間の団体に属している若いスタッフも多くなると予想されるため、できるだけ参加しやすい体制をつくりたい。

- ② 「高校生のための映画館」(「中学生のための映画館」)プログラム ワークショップ

実施期間:2011年4月～2012年3月末

参加者(参加機関、予定)

川崎市アートセンター、金沢シネモンド、金沢21世紀美術館、シネマテークたかさき、シネマ尾道、鎌倉市川喜多映画記念館、デジタルスキップステーション等で映像教育事業を担当する若手スタッフ10～20名程度

このワークショップでは、特に「高校生」(あるいは中学生)を対象として、映画映像の魅力を伝えるための鑑賞事業を共同で構築し、参加者それぞれが所属する団体において実施する。

- ③ 公共的な映像施設(メディアセンター、シネマテーク、アーカイブ)スタッフ ワークショップ

実施期間:2012年1月2日間程度

共催:東京国立近代美術館フィルムセンター(予定) 協力:東京藝術大学、立命館大学ほか(予定)

対象: せんだいメディアテーク、金沢 21 世紀美術館、川崎市市民ミュージアム、川崎市アートセンター、鎌倉市川喜多映画記念館、神戸アートビレッジセンター、広島市映像文化ライブラリー、山口情報芸術センター、高知県立美術館、福岡市総合図書館といった公共の映像専門施設の学芸員など若手スタッフ

メディア芸術振興策が進められ、劇場法が成立するといった文化政策が進んでいく中で、地域にある映像専門施設は、単に自館の事業を行うというだけでなく、国内の類似施設と連携しながら映像文化の振興に積極的に関与していくことが求められる。地域における映像アートマネージャー/メディア芸術マネージャーの育成や登用なども含め、幅広い意味での映像教育を進める上でもこれらの施設がその役割を果たす必要がある。さらに民間の映画館のデジタル化が急速に進む中でフィルムでの上映環境をどう確保していくかという大きな課題にも対応する必要がある。現在、国内で最も重要な活動を行っている公設の映像専門施設の学芸員やスタッフを中心に、地域の文化政策にかかわり、映像文化の振興を担う人々が集まり、映像教育機関の研究者とともに、これらの課題について徹底的に話し合い、具体的なネットワーク事業を考える。

(2) 全国コミュニティシネマ会議 2011 イン 広島 の開催 (広島市文化財団/広島市映像文化ライブラリー)

開催時期: 2011 年 9 月 2 日(金)~3 日(土)

開催会場: 広島市映像文化ライブラリー

内容については別添資料参照。

(3) EU フィルムフェスティバル 2011 の巡回 (主催: 駐日欧州連合代表部、EU 加盟国大使館・文化機関)

実施期間: 2011 年 5 月 26 日~6 月 26 日(フィルムセンターでの上映は 6 月 19 日まで)

巡回会場: 同志社大学寒梅館ホール(京都)、岡山県立美術館(岡山 EU 協会)、香川県社会福祉総合センター(香川 EU 協会/香川大学図書館)、山口情報芸術センター、広島市映像文化ライブラリー

東京国立近代美術館フィルムセンターを会場に毎年開催されている EU フィルムフェスティバルを各地に巡回する。

(4) 文化庁映画週間「MOVIE CAMPUS 2011」への協力(主催: 文化庁、ユニジャパン)

東京国際映画祭開催期間中に行われる文化庁映画週間の一環として行われる「MOVIE CAMPUS 2011」に協力する。

2. 自主事業

[1] 映画応援団—シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト

主旨

震災から2ヶ月以上を経て、被災地ではライフラインが復旧し、衣食住についての一次的な支援は行き届き、学校や体育館などに避難した人たちの仮設住宅や民間のアパートへの移動も進みつつある。そのような中で、求められているのが被災者をメンタル面で支援すること、文化的な側面からの支援である。映画には、夢や希望で人の心を癒し、生きる勇気を与える力がある。特に、大きなスクリーンで、多くの人たちとともに映画を見ることで、一時でも現実を離れ映画の世界に浸り、笑い涙するという体験は、被災地での日々の生活に疲れた人たちの心を癒すことができるにちがいない。「映画応援団—シネマエール東北」では、被災地に映画を届けること—避難所や仮設住宅の集会所などで映画を上映すること—で、映画を愛する世界中の人々が被災地を見守っているということを伝え、被災した人たちを元気づけたい。

活動内容

東日本大震災とそれに続く福島第一原発事故により、甚大な被害を受けた岩手、宮城、福島三県を中心とする地域で上映会を開催する。

共催: 東日本映画上映協議会

現地事務局・実施団体:

岩手県・みやこシネマリン

宮城県・NPO法人20世紀アーカイブ仙台

福島県・山形国際ドキュメンタリー映画祭/山形県映画センター/フォーラムネットワーク/

シネマソウル

協力: 特定非営利活動法人ジャパン・フィルムコミッション、せんだいメディアテーク、岩手県興行生活衛生同業組合、生活衛生同業組合宮城県映画協会、福島県興行生活衛生同業組合

作品提供(第1期DVD): 角川書店、松竹株式会社、東宝株式会社、株式会社日活、東和プロモーションズ ほか

特別協力(予定): 東京国際映画祭/財団法人日本映像国際振興協会(ユニジャパン)

支援(申請中): 芸術文化振興基金、中央共同募金会など

※詳細は添付資料参照。

[2] シネマ・シンジケート プロジェクト

(1) 選定・推薦作品

・イエジー・スコリモフスキ監督 『エッセンシャル・キリング』の上映

「アンナと過ごした4日間」で脚光を浴びたポーランドの名匠イエジー・スコリモフスキが「バッファロー’66」の監督ヴィセント・ギャロを主演にむかえ撮った最新作。5月下旬に来日し積極的にプロモーションを行った。ヴェネチア映画祭で審査員特別賞と主演男優賞の2冠受賞。

・加盟館製作参加型の邦画への支援

函館発映画『海炭市叙景』に続く加盟館製作参加型映画へのアプローチを開始。浜松シネマイーラが発信する中沢けい原作、鈴木卓爾監督の「楽隊のうさぎ」を製作、配給支援する。原作権は取得済、脚本は大石三知子、プロデューサーは『海炭市叙景』の越川道夫。『海炭市叙景』とほぼ同額の予算規模を想定。

・新人監督発掘プロジェクト「New Director/New Cinema」第2弾作品—未定

真利子哲也監督 『イエローキッド』に続く「New Director/New Cinema」第2弾作品の選定、上映。

会員からも積極的に推薦作品を求めていく。

(2) 配給受託事業

・加盟館出資参加型映画『悲しみのミルク』の配給。

川崎市文化財団(川崎市アートセンター)が KAWASAKI アーツ(KAWASAKI しんゆり映画祭)出資参加映画「悲しみのミルク」の配給協力。プロジェクトとしての成功を目指す。

・BMS—ユーロスペース共同配給プロジェクトの配給受託—

ジュリアン・シュナーベル監督作品「MIRAL」

ブリュゲルの絵画をテーマにしたアート映画「THE MILL&THE CROSS」

ブロードメディア・スタジオとユーロスペース、コミュニティシネマセンターが協議して洋画作品を購入し劇場権をユーロスペース・コミュニティシネマセンター、DVD 権、TV 権をブロードメディア社が行使するプロジェクト。新作洋画の上映作品の多様性を目指す。

・コミュニティシネマセンター・クラシック

『赤い靴—デジタルリマスター』、『歴史は女で作られる—デジタルリマスター』、『ナッシュビル』、『天国の日々』を上映。

・監督特集企画

「クロード・シャブロール未公開傑作選」、「ロベール・ブレッソン傑作選」を上映。

・注目すべき新作

第 60 回カンヌ映画祭で審査員特別賞を受賞した、一番イタリアで注目される監督マッテオ・ガローネの『ゴモラ』を上映。原作はロベルト・サヴィアーノによる「死都ゴモラ」。

[3] シネマテーク・プロジェクト

(1) 第 4 弾 「フレデリック・ワイズマン 全作品上映！」

現在も旺盛な創作意欲で新しい作品を撮り続けるドキュメンタリー作家フレデリック・ワイズマン。コミュニティシネマセンター(エース・ジャパン)では、1998 年の「フレデリック・ワイズマン映画祭」の開催以来、ワイズマン作品を買い足し、数年ごとにワイズマン監督特集を実施してきた。2010 年にはニューヨーク近代美術館(MOMA)で、1 年間かけてワイズマンの長期レトロスペクティブが行われ、ガリマール社と MOMA による「Frederick Wiseman」も出版された。2011 年のシネマテーク・プロジェクトは、1967 年の『チチカット・フォーリーズ』から 2010 年の『ボクシング・ジム』まで、ワイズマン監督作品全 38 本からなる、完全なフレデリック・ワイズマンレトロスペクティブを実現、監督自身も招聘する。

開催時期:ユーロスペース 2011 年 10 月 29 日(土)～11 月 27 日(金)

この後、2012 年秋までにシネマテーク約 10 会場に巡回、上映を希望する映画館等へも巡回する。

共同開催(予定):ユーロスペース/オーディトリウム渋谷(東京)/せんだいメディアテーク(仙台市)/川崎市アートセンター・川崎市市民ミュージアム(川崎市)/ 金沢 21 世紀美術館(金沢市)/ 立命館大学(京都)/ 神戸アートビレッジセンター(神戸市)/ 広島市映像文化ライブラリー(広島市)/ 山口情報芸術センター(山口市)/ 高知県立美術館(高知市)/ 福岡市総合図書館(福岡市)ほか

(2) 第 3 弾 「日本ポルトガル修好通商条約 150 周年ポルトガル映画祭 2010」

2010 年秋以降、巡回している「ポルトガル映画祭～マノエル・ド・オリヴェイラとポルトガル映画の巨匠たち」、2011 年度は、6 月の福岡市総合図書館での上映後、東京最終上映をアテネ・フランセ文化センターで開催する(7 月 29 日～8 月 13 日)。

[4] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 「松竹キネマ 90 周年記念企画: 渋谷実監督特集/松竹を代表する 10 人の女優たち」巡回

(共催: 東京国立近代美術館フィルムセンター(渋谷実監督特集)、提供: 松竹株式会社)

1920 年の松竹キネマ合名会社にはじまる「松竹映画」は、2010 年に 90 周年を迎えた。これを記念して昨年秋、松竹では「ゴールデン・クラシック 1950 松竹黄金期の三大巨匠」と「女優王国—日本が恋する女優たち」のふたつの特集上映を開催した。コミュニティシネマセンターでは、これを全国巡回用にアレンジして「女優王国—松竹を代表する 10 人の女優たち」と「渋谷実監督特集」を巡回する。

巡回作品:

女優王国—松竹を代表する 10 人の女優たち

愛染かつら(総集編)田中絹代・野村浩将/ 按摩と女 高峰三枝子・清水宏/ 安城家の舞踏会 原節子・吉村公三郎/ 醜聞(スキャンダル)山口淑子・黒澤明/ 本日休診 岸恵子/淡島千景・渋谷実君の名は(総集編)岸恵子・大庭秀雄/ 東京暮色 原節子/有馬稲子・小津安二郎/ ゼロの焦点 久我美子・野村芳太郎/ 山河あり 高峰秀子・松山善三/ 秋津温泉 岡田茉莉子・吉田喜重

渋谷実監督特集

奥様に知らすべからず 1937/ てんやわんや 1950 または 自由学校 1951/ 本日休診 1952/ 現代人 1952/ 正義派 1957/ 気違い部落 1957/ 悪女の季節 1958/ もず 1961/ バナナ 1960/ 好人好日 1961

(2) ヤスミン・アフマド監督レトロスペクティブの開催・巡回 (東京会場: ユーロスペース)

2009 年 7 月に急逝した、現代マレーシア映画の牽引者・ヤスミン・アフマド監督。コミュニティシネマセンターでは、すでに上映権が切れていた 4 作品(『ラブン』『細い目』『グブラ』と『ムアラフー改心』)の日本での上映権を取得した。これに、現在も国際交流基金が権利をもつ 1 本と、国内に日本語字幕付プリントがある遺作『タレントタイム』を合わせてヤスミン・アハマド監督全長編を上映する特集を 7 月 16 日~22 日、ユーロスペースで開催し、その後、全国に巡回する。

(3) 所蔵フィルムの巡回、国際交流基金提供外国映画の巡回への協力など。

当センターが保有するワイズマン、ヤスミン・アフマド監督作品をはじめ、配給委託作品等の貸出を行う。

[5] その他の事業

(1) コミュニティシネマ賞の授賞など

国際映画祭でコミュニティシネマ賞を授賞することを検討するとともに、2009 年の山形国際ドキュメンタリー映画祭で同賞を受賞したソーラヴ・サーランギ監督作品「ビラル」の配給・上映を実現する。

(2) 地域のコミュニティシネマに対する支援・アドバイスなど

DLPを導入した館への情報提供や作品提供のための渉外活動を行う。映画外コンテンツの活用も視野にいれ、地域の映像コミュニティスペースとしての映画館プログラムづくりを模索する。

(3) ウェブサイトの運営、会員制度の充実など

ウェブサイトの改編作業を進めるなど、会員制度のさらなる充実を期し、団体会員の増加をはかる。

一般社団法人コミュニティシネマセンター
2011年度収支予算書

1. 収入の部	
[1] 事業収入	
(1) 受託事業収入	17,150,000
(2) 自主事業収入	75,430,423
事業収入合計	92,580,423
[2] 事業外収入	
コミュニティシネマセンター会費	1,920,000
寄付金収入	1,000,000
事業外収入合計	2,920,000
当期収入合計	95,500,423
2. 支出の部	
[1] 事業費	
(1) 受託事業支出	11,250,000
(2) 自主事業支出	65,448,930
事業支出合計	76,698,930
[2] 事業外支出	
人件費(社会保険料含む)、税金等	16,000,000
一般管理費(家賃等)	2,400,000
一般管理費(通信費、コピー代、文房具代等)	2,000,000
事業外支出合計	20,400,000
当期支出合計	97,098,930
当期収支差額	-1,598,507
前期繰越収支差額	-5,085,331
次期繰越収支差額	-6,683,838